

「ふるさとに生きる・佐賀編」

0014	N	遮るものが何もない広大な土地。遠くに見えるのは有明海です。
0025	N	ここは佐賀県白石町福富。 青々とした平坦な農地は、江戸時代初期から本格的に始まった有明海の干拓事業によって生み出されました。
0044	N	白石町のあちこちに、先人たちの苦難の歴史が残されています。 城壁のようなこの壁は、陸地と海を隔てた堤防の跡。
0101	N	ここでは、水はけが悪く米作りに苦勞した土壌を逆手にとって全国に名をとどろかす特産品の生産が行われています。
0123	N	灼熱の陽ざしの下で始まる白石レンコンの収穫。農家の人々は植え付けから出荷まで、まさに「レンコン漬」の1年を過ごします。
0143	N	広大な佐賀平野の秋の風物詩、熱気球大会。穏やかな大空は世界中のパイロットたちにとって、憧れの「聖地」に。
0159	N	地上では未来を担う世代が、ふるさとに感謝する気持ちを大人たちからしっかりと受け継いでいます。
0213	N	誰に言われるでもなく、畑へ。 父の背中を見て育つ白石の子供たち。 お手伝いの後にはご褒美が待っています。
0236	N	☆タイトル N レンコン作りに生きる佐賀の1年を追いました。 『にっぽん農紀行 ふるさとに生きる く干拓の恵み 大地に息づく』